

# I 令和2年度事業報告

## 1 令和2年度事業実施概要

畜産事業を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、インバウンド・外食需要の減少により、各畜種とも相場の動きが大きい1年となりました。

牛肉は和牛を中心に需要が外食から内食へシフトし、豚肉、鶏肉は旺盛な家庭消費を背景に高値で推移しましたが、鶏卵は4月の巣ごもり特需から一転、6月以降は加工・業務筋での低迷等、各畜種とも甚大な影響を受けました。

特に、牛肉につきましては、枝肉価格の大幅な下落を招き、肉用牛肥育経営安定交付金(牛マルキン)単価が大幅に上昇し、その結果、交付金単価の県間格差が広がり、国はその不公平感を是正するため算定方法の見直しと生産者負担金の納付猶予を実施しました。そして、牛マルキンの交付状況については、生産者積立金が払底し、国費分(4分の3)のみの交付となりました。

一方、鶏卵生産者経営安定対策事業についても今年度の価格差補てん交付金は、低卵価で推移したことから令和2年9月分の追加補てんにて打ち切りとなりました。

家畜疾病については、高病原性鳥インフルエンザが昨年11月に香川県で発生して以来、三重県では確認されていないものの、全国では18県52事例の発生が確認されました。

また、豚熱については、ワクチン接種の開始後も接種農場で発生し、三重県においても昨年の12月に2例目が確認されました。陽性の野生イノシシの存在は、国内での豚熱の広がりに歯止めが掛かっていない状況であり、加えて近隣諸国で続発する口蹄疫・アフリカ豚熱・鳥インフルエンザの発生等、生産基盤を揺るがしかねない大きなリスクは、依然として高い状況といえます。

続発した家畜伝染病の発生に伴い、全畜種の飼養衛生管理基準の改正が行われ、農場での飼養衛生管理の徹底と一層の防疫体制の強化は、畜産農家の心身に多大な負担を強いることとなりました。

当協会では、畜産行政をはじめとした関係機関の協力を基に、地域一体となった農場のバイオセキュリティの構築、畜産クラスター事業(機械導入事業)、家畜防疫互助金や補てん金の交付事業等を推進し、経営の安定化に向けた経営支援対策に取り組みました。

一方、事務局を預かる活動は、新型コロナウイルス感染症の影響から催事の中止もありましたが、生産者と共に切なる声を行政関係者、消費者等に届け、健全な畜産業界の維持発展に寄与すべく、一丸となって活動しました。

## 2 令和2年度の主な行事

(令和3年3月末日現在)

年	月	日	行 事 内 容	
2	5	28	(一社) 三重県畜産協会 定期監査会	
		28	新JA三重ビル事務局全体打合せ会議	
	6	1	三重県和牛繁殖協議会総会	
		18	新JA三重ビル事務局全体打合せ会議	
		18	(一社) 三重県畜産協会第1回理事会	
	7	22	三重県農政対策本部委員会	
		30	(一社) 三重県畜産協会 定時総会 第2回理事会	
		16	新JA三重ビル事務局全体打合せ会議	
		8	6	三重県和牛繁殖協議会役員会
	20		新JA三重ビル事務局全体打合せ会議	
	9	31	地方会員活動支援推進事業第1回企画検討委員会 (Web)	
		28	三重県畜産研究所 第1回研究評価委員会 (事前・中間評価)	
		15	新JA三重ビル事務局全体打合せ会議	
	10	30	(一社) 三重県畜産協会 第3回理事会	
		11	2	農業関係団体と知事との意見交換会
	9~12		会計検査院第4局農林水産検査第1課会計実地検査	
	20		地方会員活動支援推進事業 第2回企画検討委員会 (Web)	
	30		農林水産関係団体等人権啓発研修会	
	12	9	三重県和牛繁殖協議会役員会	
		14、15	地方会員活動支援推進事業 第3回企画検討委員会	
		18	東海ブロック畜産協会連絡協議会 [リモート会議]	
	3	1	21	新JA三重ビル事務局全体打合せ会議
			29	地方会員活動支援推進事業 第4回企画検討委員会
		2	24	中央畜産会 第2回中央打合会 (Web)
			3	8
		16		三重県和牛繁殖協議会繁殖勉強会
		18		三重県畜産研究所第2回研究評価委員会 (事後評価)
		25		畜産会役職員功労者表彰
30		地方会員活動支援推進事業に係る第5回企画検討委員会		

## 3 会員の状況

(令和3年3月末日現在)

区分	期首	増加	減少	期末
正 会 員	39	0	0	39

## 4 職員に関する事項

(令和3年3月末日現在)

区分	期首	採用	退職	期末
正 職 員	5	0	0	5
嘱 託 職 員	3	0	0	3
臨 時 職 員	0	0	0	0
パート職員	3	0	0	3
合 計	11	0	0	11